



2009年6月

図書館 まなびトーク

学人ニュース

図書館を利用して行った生涯学習の発表会

ともに学びあう

図書館 まなびトーク

平成21年5月22日(金)午後1時30分から、当館研修室において今年度第1回目の図書館まなびトークを開催しました。

今回のまなびトークは、4月30日締切で発表者を募集したところ、細井宏さんと岡戸大国さんが応募してくださり、それぞれ「良寛和尚の足跡」、「無害な核エネルギーと中央アジアの資源大国カザフスタンの将来展望」のテーマで発表してくださいました。(発表要旨は次ページ以降をご覧ください。)

まなびトークは前回3月に続いて2回目の開催となります。今回は新たに、調べものに役立つ図書館のPRをかねて、ワンポイント図書館活用ミニ講座の時間を盛り込みました。

また参加者同士や、参加者と図書館が交流できるように、対面形式での情報交換の時間を設けました。

当日は、24名の方が参加され、お二人の発表に熱心に耳を傾けておられました。情報交換会では図書館の活用について参加者の皆様から貴重なご意見を多数いただきました。

次回は7月24日(金)に開催予定です。

「図書館 まなびトーク」とは...図書館で学ぶ人たち(学人=まなびと)の学習体験の発表、交流(=トーク)の場として、また日常の生涯学習の場として図書館をもっと活用していただきたいという思いから名づけました。(今後の開催予定:7/24、10/30、2/26)

~プログラム紹介~

発表「良寛和尚の足跡」細井宏さん
ワンポイント図書館活用 1 当館職員
「良寛の自画像を調べる」
質疑応答
~ 休憩 ~

発表「無害な核エネルギーと中央アジアの資源大国カザフスタンの将来展望」岡戸大国さん
ワンポイント図書館活用 2 当館職員
「カザフスタンについて調べる」
質疑応答
情報交換



参加者の声

(アンケートのご意見から)

細井さんのお話では、今現在でも謎となっているという出家の理由について、とても興味深くうかがいました。歴史的な背景、また要所でのわかりやすい解説をうかがって、良寛和尚への興味がわきました。今後作品に触れてみたいと思います。その折にはきっと「かわいい」のおはなしを思い出すと思います。ワンポイント図書館活用では、それぞれのテーマにかかわって具体的な内容でお話だけだったので、とてもわかりやすく、いろいろな調べ方を知ることができました。(市川市 47歳)

知らない分野の話聞き、参考になった。席の配置は顔が見える今回の方がよい(出席人数にもよると思いますが)(市川市 61歳)

「ワンポイント図書館活用」はとてもよいと思いました。たとえば、良寛の漢詩の気になるところを漢詩・読みくだし、現代語訳を丹念にたどってみたいと思いました。(松戸市 74歳)



良寛和尚の足跡

細井 淳^{コウ}

良寛和尚の生涯を、幼年時代、青年時代、五合庵時代、晩年と夫々に分けて、良寛和尚の遺された漢詩、和歌を交えて、話を進めてゆきます。

良寛（1758～1831）は今から凡そ二百五十年前に、新潟県三島郡出雲崎の名主兼石井神社の神官を努める、山本以南の長男として生まれました。山本家は代々の名主であったのです。

幼年時代

幼名を栄蔵と言いました。幼い頃から莫迦正直で、ある日父親に叱られた時に栄蔵は、上目使いに父の怒った顔を眺めていたので、「親をにらむと鰈（かれい）になるぞ」と父親は冗談に驚かしたところ、それを真に受けて自分は本当に鰈になると信じて、海辺の岩に佇んでいたと言う逸話がありました。その為、当時の出雲崎の村人達は、普通と違った栄蔵の行動をあざ笑って「名主の昼行灯」と言う「あだな」をつけていたのです。

少年時代～青年時代

栄蔵は十一、二歳の頃から漢学者、大森子陽（1738～1791）の狭川塾へ六年間通って、漢学を主とする基礎的な学問を身につけたのです。十六歳の時に元服して「文孝」と名乗りました。父の跡目をつぐ為に、名主見習役の職につきました。ある時、盗賊の処刑に名主見習役として立ち会ったのです。その時無常を覚えて、救世心に溢れたのかも知れません。十八歳の時、突然同じ出雲崎の村にあった、禅寺 光照寺に行き、玄乗破了和尚の許で剃髪し、出家しました。

光照寺で四年間修行した良寛（出家して後の名称）は二十二歳の時、光照寺を訪ねてきた国仙和尚（岡山県玉島の曹洞宗円通寺住職）の弟子となって、師のあとについて、はるばる岡山へ行き、円通寺で厳しい禅の修行に励んだのであります。円通寺で十二年に及ぶ修行の後、良寛が三十三歳の時に国仙和尚より禅宗の卒業証書に該当する「印可の偈」を受けました。ここまでに至る良寛の忍苦は並大抵のものでは無かったでしょうが、自らを語ることはありませんでした。

円通寺で修行を終えた良寛は、諸国行脚に出掛けました。旅の空で詠んだ和歌が残されています。

草枕 夜ごとに変わる宿りにも 結ぶは同じ
ふるさとの夢

良寛は三十八歳の時、越後へ戻ったと伝えられております。ここで振り返って見ますと、光照寺で出家してから二十年間、円通寺に赴いてから十六年間という永い年月が早くも流れ去っていたのであります。然し良寛は、この間の生活について殆ど何も語らず、当時に取材した詩歌も大体越後へ戻ってから書かれたように思われております。

五合庵時代

越後に戻った良寛は、出雲崎の生家、橘屋の門前に暫く佇んだだけで、颯然と立ち去ったそうです。そしてそれ以来、出雲崎を中心とした空庵を転々としたあげく、国上の五合庵に入り、ここに初めて安住の場所を定めたのです。老杉に囲まれた五合庵は、国上山の中腹にあり、国上寺の住職の隠居部屋で、たった一間の茅葺きの四、五坪ほどの小庵でした。五合庵における生活は、権威もなく、名声も求めず、ひたすら無一物の清貧に甘んじる日々でした。その日に必要な食糧は、村に出て托鉢をして得たものを充てているだけでした。五合庵定住の頃の漢詩をご紹介します。

生涯営む所無く 騰々天真に任す 囊中三升の
米 炉辺一束の薪
首を回らせば五十有余年 人間の是非は一夢の
中 山房五月黄梅の雨 半夜蕭々虚窓にそそぐ

月よみの光を待ちてかへりませ山路は栗の毬の
多きに

良寛は五合庵に十数年間を過ごしましたが、六十歳の時、国上山の五合庵を出て山の麓にある乙子神社の草庵に移りました。この頃に良寛は、村の子供達と手毬をついたり、かくれんぼをしてあそびたのです。その折に詠まれた和歌です。

この里に手毬つきつつ子供らと遊ぶ春日は暮れ
ずともよし

晩年

乙子の草庵に移り住んでから十年になり、自

炊や薪作りに堪えきれなくなった良寛は、有力な支援者だった木村元右衛門のすすめで、その屋敷内の物置小屋を改造した庵室に移転しました。ここで晩年の良寛に、浄らかな愛のたかまりを見せた「貞心」という尼さんとの巡り逢いがありました。貞心尼は長岡藩土奥村五兵衛の娘で、関長温という医師に嫁いだが五年の後、夫と死別したので柏崎の洞雲寺で出家して「貞心」という尼僧になったそうです。良寛を敬慕して島崎の庵室を訪ねたのは、時に良寛七十歳、貞心尼二十九歳でした。仏道と和歌のご指導を仰ぎたいと良寛の弟子となりました。良寛が常に手毬に興じている様子を見て、貞心尼は

これぞこの仏の道に遊びつつ つくやつきせぬ実りなるらむ
と詠んだ返歌として良寛は、次のように詠みました。

つきてみよ ひふみよいむなやここのとを十とをさめてまたはじまるを

貞心尼は良寛の最期まで看とり「蓮の露」という歌集を作っております。良寛は、恩師の国仙和尚や曹洞宗の宗祖道玄の教えをよく守り、生涯寺を構えず、法を説かず、妻子も持たず、無欲に徹して清貧の思想を貫いた僧侶でした。

生涯に残された漢詩は六百余首、和歌は千二百余首、俳句は百首、書は凡そ二千点といわれております。

参考文献

- 良寛 吉野秀雄著 アートデイズ発行
(県立東部)
- 良寛和尚の人と歌 吉野秀雄著 弥生書房発行
(県立西部)
- 良寛全集 大島花束著 恒文社発行
(県立西部)

～ワンポイント図書館活用ミニ講座 Part1～

良寛の自画像を調べる・・・『日本美術作品レファレンス事典』を使って『日本美術作品レファレンス事典』のシリーズには、「絵画篇」、「工芸篇」、「書跡篇」、「陶磁器篇」、「彫刻篇」などがあります。各篇とも、作品の図版が、どの美術全集に掲載されているかを調べることができます。『(同)絵画篇近世以前』の巻末にある作者別索引で「良寛」を調べると、「いろは 一二三」と「読書 図自画像」の図版が掲載されている美術全集がわかりました。また良寛には書の作品も多数あるので、『(同)書跡篇1 日本の書』で調べてみると、「自画像」が『定本書道全集 11』の図113に、「自画像賛」が『日本書蹟大鑑 24』の図14にのっていることがわかりました。県立図書館には所蔵していなかったのですが、県内の浦安市立中央図書館で所蔵していた『定本書道全集 11』を取り寄せてこの「自画像」といわれている画を見ることができました。

* 『日本美術作品レファレンス事典 書跡篇1 日本の書』眺アソシエーツ 2001.7 西部参考 7021-38-8
* 『日本美術作品レファレンス事典 絵画篇 近世以前』眺アソシエーツ 1998.5 西部参考 7021-38-3



世界における日本の使命（役割）

新松戸在

岡戸 大箇

昭和13年生れ

危険な原子力発電所にかわって、害のない核エネルギー、トリウムによる塩融炉の設置による日本の将来像と、資源国カザフスタンについて。

略歴と実績

S46～50 杉並区議
S57～61 松戸市議

小学1年
2

羽生市手子林小
四谷第4小

新宿御苑トンネル開通、樹木を残す。
麻生代議士を通じ、天野建設大臣に陳情。

大学卒業後、賀川豊彦財団、雲柱社主事。
理事、川上丈太郎、小崎道雄ら。

中学・高校

早稲田実業中等部、高等部

S54 新松戸中央パークハウス（三菱地所）入居。

新松戸町会連合会創設。

〃 祭りをスタートさせる。

大学

明治学院大学 社会福祉

新明正道ゼミ、仲人（家永三郎の義父）

生協と基督教学生会会に所属。

森田県知事は後輩。同窓会は？

安岡正篤、矢次一夫、中村菊男らに指導受ける。
趣味、読書。健康につき、90才まで現役を！
家族、妻、長男医師、長女会社員。

父親 クリーニング業、遺言
「息子に投資したが見返りがなかった」

夢、茨城県大子町に先祖 楠木正勝の宮を！
出版 『わが町・わが県・わが国土』

原子力政策について
古川和男『原発革命』文春新書
トリウムによる核エネルギー、熔融塩炉
原爆（広島、長崎）唯一の被爆国。

原子力発電所の3分の1型、送電線なし。
安全が地球環境にたいへんよい施設。

カザフスタン
資源の国。中央アジアの開発が世界を
豊かにし、日本を豊かにする。日本は資金国。
クリントン国務長官、横田基地へ、2,500兆
円を！
その資金は100年契約で、あと35年残っ
ている。

～ワンポイント図書館活用ミニ講座 Part2～ カザフスタンについて調べる
まず、カザフスタンの位置や大きさ、なりたちなど、おおまかな概略を調べるときには
は事典を見ます。『最新世界各国要覧 11訂版』西部参考302-3、『世界年鑑 20
08』西部参考059-1-08など。
また、県立東部図書館からのお取り寄せとなりますが、『地球の歩き方』のシリーズも
広範囲の国をカバーしています。旅行に行くときだけではなく、地図や概略、写真も
のっていて、その国の雰囲気わかる便利な資料です。
インターネット上にもたくさんの情報があります。外国について調べるときには、大
使館や外務省のページがあります。
本以外の調べかたでは、新聞で最新情報をチェックすることもできます。西部図書館
で、無料で利用できる新聞記事データベースには、朝日新聞の「聞蔵」と日本経済
新聞の「日経テレコン21」があります。
*このほかの県立図書館所蔵資料についてはリストをご覧ください。



関連資料の展示
(カウンター前)

情報交換

～貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。発言の一部をご紹介します。～

- ・社会科学系等の新刊の資料が少ないことについて。県立3館で分担収集しているため少ない。今後は展示特集等での提供も検討したい。(図書館)
- ・中央・東部の本でもリクエストすれば2日くらいで届くので、複本購入ではなく、きめ細かい収集をしてほしい。
- ・雑誌は貸出し不可だが、中央・東部しかない本で、雑誌だと利用しづらいので貸出し範囲を広げてほしい。
- ・自分で作った原稿を図書館でもコピーできるようにしてほしい。
- ・図書館のコピー機は図書館資料のコピーをするため設置している。(図書館)
- ・県立では雑誌の貸出しが禁止のため、バックナンバーが欠号なく保存されているのがありがたい。
- ・このように図書館が主体となって、利用者との対話をしつつすすめていくというすばらしいことは、他の図書館でも行っているのか。女性の職員がいつも丁寧でやさしく対応していると感じる。
- ・県立西部にきて社会人席があることに驚いた。社会人をひとつのグループとして認めているのは、かなり配慮をしているのであろう。
- ・中年の人が会社人間、仕事人間から脱して、一般市民、一人の人としての活動をする時間をもつ契機になる、ということに、図書館がいきつければよいのではないかと。社会の中核を担っている人たちにこそ、まなびトークのような場が必要なのではないかと。
- ・仕事を持っている世代には難しい。自分も退職してからこうした活動をする気分になった。
- ・利用者が自分たちのグループを作って図書館を使って発表することは革命的である。地域の方たちが自立するひとつの施設として図書館をとらえると、自分のテーマを自分で解決するというような図書館を担いたい。今後は楽しみ。



まなびトークの記録

2009年3月18日開催

湯沢 幾男さん 「日本の風土を考える ～二つの風土論から学んだこと」

阿部 幸次さん 「樺太アイヌの歴史と山辺安之助の『あいぬ物語』」

図書館 まなびトーク 学人(まなびと) ニュース

発行日：平成21年6月2日

編集：千葉県立西部図書館

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀 657-7 TEL 047-385-4133

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>